

福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)骨子案

はじめに

■策定の目的・位置づけ

本ビジョンは、**福岡市の環境都市づくりの分野で新しい価値を創造し、都市の成長につなげ、誰もが豊かで快適に暮らすことができる持続可能な社会を実現する**ことを目的としています。したがって、対象範囲については、従来の環境分野から、福祉や教育、ビジネス、観光などの社会・経済分野にまで広がっています。本ビジョンは、今後の環境基本計画や環境分野の個別計画の策定、改定の指針となるほか、その他の行政分野の計画等においても環境都市づくりの面での指針となるものと位置づけています。

2050年経済の姿
九州経済の中心であり続けるふくおか
アジア経済圏で存在感を示すふくおか

2050年社会の姿
年齢を超えて、すべての人がいきいきと暮らす、
すみやすいまちふくおか



第2章 2050年にむけて、ふくおかに求められること～将来に向けた社会的要請～

将来にむけた社会的要請や取組状況を環境・社会・経済の視点から整理

環境

- 2050年までに温室効果ガスを80%削減するため、エネルギー需要・供給両部門での大幅削減が今後求められます。
- 生物多様性国家戦略**※2・**愛知目標**※3の達成に向けて、様々な主体と連携しながら取り組みを進めていく必要があります。
- 地域規模に最適な循環型社会の形成を目指した**“地域循環圏”**の構築を低炭素社会推進のために進めていく必要があります。
- 今後、**気候変動への適応**に向けて自治体レベルの**取り組みを行う**必要があります。

社会

- 来るべき**超高齢社会**に備えた**インフラ・サービス・社会システム**の整備が必要です。
- 今後は地域活動の担い手として**行政・住民・企業等が緩やかに連携し活動**することがより一層求められます。
- 都市政策、観光、情報通信など多くの分野で国際競争力を伸ばすため、**国際的に活躍できる人材を育成するための教育の重要性**が指摘されています。
- アジアの環境課題解決に向けて国際貢献**していくことが求められます。

経済

- 世界-日本間における**ヒト・モノ・カネの流れの倍増**に向けて、九州地域も**アジアとの連携**を通して自立的に発展することを目標としています。
- 九州を「東アジアの観光客が気軽に何度でも訪れる国際観光地」とするため、**観光の多様化・‘ニューツーリズム’**の推進が必要です。
- 九州が**一体となり、自立的な経済成長**を遂げることを求められ、福岡市も**日本・九州圏域の経済成長のエンジン**としての役割が期待されています。

第1章 ふくおかをとり巻く脅威～将来予測からわかること～

■ 人口の減少と構成割合の変化

2050年、世界人口は、91.5億人となる一方で、**アジアの人口は52.3億人に増加**します。日本は約**26%減少**し、9千5百万人となり、福岡市は〇万人※1になると予測されています。日本の高齢化率も、約1.7倍増加し、人口の約4割を占めると予測されています。

■ 世界のエネルギー・食料・水事情の変化

2050年、世界人口の増加により、**エネルギー、食料、水資源の争奪戦**が予測され、日本のエネルギー資源、食料、水資源の安定的な確保が厳しくなっていくという予測があります。

■ 高齢化による医療・社会保障の増加

日本では、高齢比率の上昇による、医療費・社会保障費の増加と現役世代への負担増等が予測され、**2050年、地域社会の活力の維持・向上が課題**となる可能性があります。

■ 地球温暖化の影響の顕在化

様々な予測において、日本でも地球温暖化の影響で、真夏日、大雨などの極端な気象現象が増加し、熱中症や都市型水害などの脅威が増加する可能性が指摘され、**2050年、地球温暖化が暮らしの安心・安全への脅威**になることが予測されています。

■ GDPの変化

2050年、経済分野(GDP)では、**アジアが台頭**する一方、日本の相対的な地位の低下が予測されています

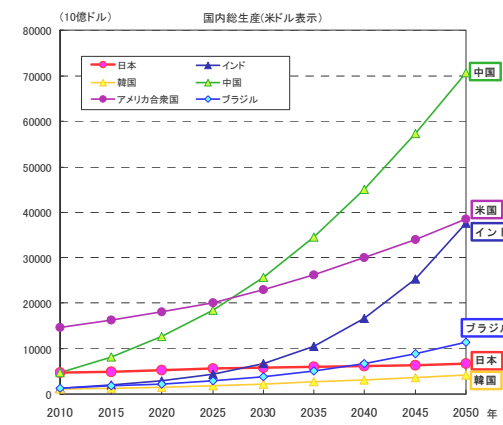


図 内閣府総合科学技術会議資料「科学技術に関する基本政策について」より作成

■ 生物多様性の変化

2050年、**人間活動による、種の豊かさや生物の生育・生息地の減少**が指摘され、**自然の姿の大きな変化**が予測されています。

第3章 ふくおかの今～新世代環境都市に向けた強みを伸ばし弱みを克服～

■ “環境” からみた強み・弱み

強み

- コンパクトな都市構造
- アイランドシティなど低炭素先進地
- 豊かな海辺環境、自然へのアクセス性
- ごみ処理量の減少
- ごみの夜間収集や福岡方式の取組
- 節水型都市、再生水利用の先進地
- アジア諸都市からの視察等受け入れ

等

弱み

- 再生可能エネルギー導入の不適地
- ヒートアイランドの顕在化
- 自動車依存
- 生物多様性の豊かさの認識不足
- 身近なみどりの不足
- リサイクルの取組みが不十分
- 博多湾の水質改善の遅れ
- 水資源の不足
- 黄砂の影響顕在化

等

■ “社会” からみた強み・弱み

強み

- アジアに開かれた国際交流都市
- 住みやすさ:利便性、食文化、自然環境
- 若者が集中

等

弱み

- 犯罪の件数についてなど安全面で懸念
- 進行する少子高齢化
- 若手人材の市外への流出、未定着

等

■ “経済” からみた強み・弱み

強み

- 商業の中心都市
- 国内外からの高いアクセス性
- 国際交流都市としての歴史と独自性

等

弱み

- 支店経済都市
- 都心の渋滞や公共交通不便地
- アジアの台頭による福岡経済の埋没

等

第1章、第2章で明らかとなった外部環境と、第3章で把握した本市の強み・弱みを踏まえ、本市としての将来像にむけた方向性を検討。

※1 福岡市の人口予測について今後推計します。

※2 中長期目標(2050年):生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとする

※3 中長期目標(2050年):生態系サービスを維持し、健全な地球を維持し全ての人に必要な利益を提供しつつ、生物多様性が保全され、回復され、賢明に利用される

第4章 2050年のふくおか～環境都市ビジョンの将来像～

新世代環境都市の将来像

快適環境ショーケース都市として輝く、人と自然とアジアによかまち・ふくおか

九州の各地域と互いに連携し協力しながら、都市のゆとりや便利さ、自然の豊かさ等が維持され、“すみやすい・すみ続けたい”と誰もが思う快適環境を有するまちを目指します。さらに、こうしたまち全体の快適環境を、ショーケース都市として国内外に発信しながら発展することで、ふくおかにすむ人、訪れる人だけでなく、地域の自然や九州全体、アジアの各都市にとっても「よかまち・ふくおか」として貢献し続けることを目指します。

まちづくりと暮らしのゼロエミッション化で発展するまち・ふくおか

- ◇ 都市構造の転換や、まちづくり分野へ低炭素化が主流化されることにより、**人々が意識することなく、エネルギー消費量が大幅減少している省エネルギー型のまち**
- ◇ **自律・分散型のエネルギーシステム**が都心部や、郊外居住地の拠点に整備され、**防災・エネルギーの安心安全都市**として世界に高い評価を得ているまち
- ◇ 太陽光・風力を中心に、再生可能エネルギーを大幅導入しエネルギーの地産地消が進むとともに、集積都市での**再生可能エネルギー導入ノウハウが、アジアの都市づくりに活用されているまち**
- ◇ コンパクトな都市構造が持続し、郊外も拠点地域が形成され、訪問客をはじめ、**誰もが安心・便利に移動できる低炭素型交通網が構築されたまち**

豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市・ふくおか

- ◇ 海洋域では、海洋汚染や温暖化が最小限に抑えられ、**豊かな水産資源の恩恵により食文化が継承**されているまち。また、島しょ部では岩礁や砂浜、沿海部では砂浜や干潟などの美しい海岸線が残り、**貴重な生き物や固有の文化などが保全**されているまち
- ◇ 内陸部では、丘陵や崖線、河川沿いに帯状に緑地が連なり、市街地への風の通り道となり、**里地里山の大切さを皆が理解し、自ら保全に取り組む**とともに、**近郊のまとまりのある森林は、市民が気軽に楽しみ、生物多様性を学ぶ場**となっているまち。また、河川では、外来種の駆除により在来種が増えつつあり、**源流部から河口部まで清らかな水が流れているまち**

“大事に使う・とことん使う”スマートコンシューマーのすむ循環のまち・ふくおか

- ◇ すべての市民に**“ものを大切に使う”精神**が根付き、モノを長く大切に使う文化が**次世代に受け継がれ**、新たな文化を生み出す地域社会
- ◇ ごみや水、**都市の中に散在する有用資源を、再資源化・再利用・エネルギー利用でとことん使う**ことにより、広域地域経済が元気になるまち

気候変動にも適応した、安全・安心、快適なまち・ふくおか

- ◇ **市民の暮らしの安心・安全に関わる課題はほぼ克服**され、次世代まで住み続けたいと市民が思う安全・安心で、快適なまち
- ◇ **気候変動への適応に先行的に取り組む**、長期的展望に立った快適なまちづくりが浸透した地域社会

環境を守り社会・経済を発展させるアジアの人材を育てるまち・ふくおか

- ◇ 世界、アジアを含めた多様な人材が、**環境都市づくりを学べる**まち
- ◇ 環境都市づくりの次世代を担う**人材が国内外に貢献する**まち
- ◇ 環境を守る人づくりで、**社会・経済が発展する**まち

第5章 将来像実現にむけた取組の方向性と重点分野(短期取組)

取組の方向性・・・2050年に向けた基本的方向
重点分野(短期取組)・・・概ね5～10年以内に着手

■低炭素分野

- 取組の方向性1:インフラ整備・建築物の更新に伴う徹底した低炭素構造のまちへの転換
街区単位での低炭素化、福岡独自の省エネ基準の導入 など
 - 重点分野①:都心部再開発地における省エネビル・エネルギーの共同面的利用のモデル的実施
 - 重点分野②:CO2排出量や削減目標などを定めた温暖化対策計画書制度の導入
- 取組の方向性2:集合住宅・賃貸住宅への集中的な高効率機器の導入
 - 重点分野③:トッランナー機器のリース制度導入検討
- 取組の方向性3:自律・分散型のエネルギーシステムの構築
地域におけるエネルギー・防災拠点の整備 など
 - 重点分野④:各地域へのスマートコミュニティのモデル的構築
- 取組の方向性4:人口動態に合わせた機能的な都市機能の維持と低炭素型交通の実現
都心のパークアンドライド、市街地の公共交通充実、まちなか居住の誘導、郊外におけるカーボンゼロのパーソナルモビリティの浸透 など
 - 重点分野⑤:EVカーシェアリング・EVバス等のカーボンゼロ交通のモデル的実施

■生物多様性分野

- 取組の方向性1:生物多様性やその恵みに関する認識の社会への浸透
生物多様性の重要性の理解促進、自然との関わり方を学ぶ機会づくり など
- 取組の方向性2:生物多様性の保全
開発に伴う緑被率の向上、地域拠点へのビオトープ整備、自然再生への誘導 など
 - 重点分野⑥:下水道の高度処理と分流化による汚濁負荷の大幅削減
 - 重点分野⑦:多様な主体による里海保全再生モデル(今津干潟)の拡大
 - 重点分野⑧:緑化地域制度の導入
- 取組の方向性3:生物多様性から享受される恵みの持続可能な利用
博多湾を資源とした観光パッケージ化、ふくおか式持続可能な漁業、他都市と連携した九州ブランドの構築、地産地消の流通網強化、九州圏域での消費地ふくおかと生産地の交流推進 など

■循環分野

- 取組の方向性1:資源循環型社会の進展
都市内に散在する有用資源(レアメタル、バイオマスなど)の全量回収・活用、資源循環を活用したライフスタイルの確立 など
 - 重点分野⑨:事業系ごみ資源化推進ファンドの活用
 - 重点分野⑩:紙おむつの資源化・ビジネス展開の支援
- 取組の方向性2:ごみ・水処理・資源活用技術に係わる人材育成
人材トレーニングセンターの設立、ごみ・水資源に係る都市経営ノウハウのパッケージ化とアジアへのビジネス展開 など

■快適環境・気候変動適応分野

- 取組の方向性1:大気汚染物質・黄砂対策を中心とした快適環境の確保
- 取組の方向性2:気候変動に適応した都市型水害、渇水、暑熱等対策の強化等、適応策の主流化と適応計画策定

■ひとづくり分野

- 取組の方向性1:人材育成・交流の拠点づくり
環境まちづくりを学び・楽しむ拠点づくり、大学連携による次世代技術のマネジメント人材の育成 など
- 取組の方向性2:環境まちづくりのパッケージ化とアジアへのビジネス展開
 - 重点分野⑪:環境まちづくりのパッケージ化

第6章 2050年の将来像実現にむけた、ロードマップ(現在検討中)